

織姫さん、 機織りに何想う

第19号 2017年7月10日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢



七夕に合わせて新作制作！

願いを込めて

さをり織りを習いはじめ、1年が経ちました。

(さをり織りとの出会いについては、本誌第6号をご覧ください。)

さをり織りを習っている工房では、「七夕に合わせて皆で織ろう！」と
『77織』と銘打って、いつも以上に盛り上がりを見せていました。

https://www.facebook.com/hashtag/77織り?source=feed_text&story_id=139808301028564

七夕の日に私自身、織ることはできませんでしたが、
七夕に合わせて新作を織り進めていました。

創始者の城みさをさんは、さをり織りに4つの願いがあると言います。

機械と人間の違いを考えよう

思い切って冒険しよう

キラキラと輝く目を持とう

グループのみんなで学ぼう

さをり織りに惹かれた一つには、この4つの願いがあったからです。

童話『鶴の恩返し』では、助けてくれたおじいさん、おばあさんへの
恩返しで織ったと言います。

機織りには、自分のためではない何かがある。

そして、機械と人間の違いがある。と織っている時、
いつも、このことを考えているのです。



花を飾るランチョンマットに！



天の川に見立てての室礼

●過去のバックナンバー

第16号

築120年古民家『聴福庵』2017①

第17号

新宿せいが子ども園 父親保育

第18号

築120年古民家『聴福庵』2017②

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

さをり織りを通して感じること

七夕の時期に園を訪問すると、短冊に子どもたちの願い事がたくさん飾られ、笹の葉と共に揺らめいていました。

七夕の主人公となる織姫は機織りの名手だそうで、織りをはじめて1年の自分にとって、憧れの存在でもあるのです。

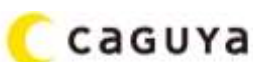
七夕に間に合うように新作を織りはじめた今回、淡い水色やピンク等を入れ織っていきました。普段、洋服や雑貨を買うときモノトーンを好む自分にとって、白黒の世界から色鮮やか世界に飛び込んだような、視野が一気に開けた感覚がありました。

昨年織った作品は、天の川に見立てて室礼で活用して頂いています。自分のために織るのではなく、誰かに活かして頂けたり、花の美しさをより引き立てるために花瓶の下に敷き飾ると、自分の心も花咲くように嬉しい気持ちになります。

月に数回しか織らない自分には、来る日も来る日も織り続ける織姫がどんな想いで織っているのか分かりません。ただ、誰かのために織り続ける、それはどんな願い事よりも尊いことなのかもしれません。

七夕の夜、天の川はネオンの明かりで見られませんでした。ただ、先生方の子どもたちを思う想いはどの園へ行っても輝いていて、子どもたちの笑顔も掛け合わせたら、天の川以上に光り輝いているそんなことを空を仰ぎ見ながら感じました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。